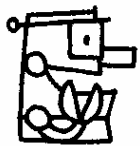


葉に日が当たると、なぜデンプンができるの



緑の葉は、根から吸^すった水と空気中の二酸化炭素からデンプンと酸素をつくり出している生産工場なのさ。

植物を上から見ると、葉が、できるだけ重ならないように広がっているのがわかります。また、日がよく当たる所の植物は、日かげより、よく成長しています。

動物は、食べ物から栄養をとって生きていますが、植物は、葉の中で栄養分をつくり出し、成長する部分や種、実、いもなど、必要な場所^すに送って生きています。

ほとんどの植物が、日光の力をかりて、葉の中で、根から吸^すい上げた水と、空気中の二酸化炭素を材料にして、栄養分のデンプンと酸素をつくり出しています。そのため、よく日が当たらないと、十分な栄養分をつくり出せず、成長が悪くなったり、かれてしまうのです。

夕方の葉には、デンプンが見つかる

日が当たる畑のジャガイモの1株^{かぶ}に、前夜から段ボールのはこをかぶせ、夕方、日が当たった葉と、はこをかぶせてあった葉をとり、デンプンがあるかどうか調べてみましょう。ヨウ素液で青むらさき色になるのを見るため、湯であたためたアルコールに葉をつけて、緑色をとかし出し、色の変化がわかりやすくします。

緑色がぬけた葉を、うすいヨウ素液につけると、日が当たった葉は、青むらさき色になり、はこで日が当たらないようにした葉は、色が変化しません。これで、日光の当たった葉にだけ、デンプンができているのがわかります。

